

(様式第1号)

| | |
|-----------------|-------------|
| 研究No. (記載不要) | 18 - 文芸 - 3 |
|-----------------|-------------|

平成 18年度配分 研究成果の概要

| | | | | | |
|-----------------|--|--------|--------------------|--|-------------------|
| 研究名 | SUACのメディアアート戦略に関する研究 | | | | |
| 配分を受けた特別研究費 | 文化芸術研究のついで特別研究費 | | | | 2,350千円 |
| 研究者氏名 (代表者) | 学部名 | 学科名 | 職 | 氏名 | 共同研究の場合の分担 |
| | メディア2 | メディア造形 | 助教授 | 長嶋洋一 | 全体統括 マネージメント |
| 共同研究者 | 〃 | 〃 | 教授 | 古田祐司 | 映像 |
| | 〃 | 〃 | 助教授 | 佐藤聖徳 | インタラクティブ |
| | 〃 | 〃 | 助教授 | 的場弘志 | 映像 インタラクティブ |
| | 〃 | 〃 | 講師 | 和田和美 | インタラクティブ Flash |
| | 文化政策 | 芸術文化 | 教授 | 大山千賀子 | 写真 |
| 発表の方法 (予定で可) | 1 紀要 | | 号数 | 第 年 号 (年 月発行) | |
| | 2 学会等での発表 学会等名: | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 年 月 日 | |
| | ③ その他 発表の方法: ○ ヴァイアアートフェスティバル 2006 ○ オープンキャンパス 2006 | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 18年 2月 22日 18年 8月 5日 18年 10月 7日 | |

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本学の特長である芸術文化マネジメント、デザイン学部のアートとサイエンス(技術と感性)の結び付いたメディアアートを、将来に向けたSUACの重要な柱の一つとして追求していく。具体的には、文化/芸術/デザインの交流領域である「メディアアート」を軸にして、過去の学長特別研究「メディアアートフェスティバル」等の成果を受けて、教員自身が作家として新作を発表する「メディアアート2006」を開催するとともに、新しく技術造形学科から「メディア造形学科」となったことをPRするために、2度のオープンキャンパスでの学科紹介・作品発表を重点的に支援する。

(研究の実施方法等)

[1] メディアアートフェスティバル(MAF2006)の開催

期日 2006年12月22日(金) - 12月25日(月)

* 坂根巖夫 氏(IAMAS前学長) 講演会

* ギャラリートーク(SUAC教員6名)

* インスタレーション展示

* メディア・パフォーマンス

* ムービー・シアター

* SUAC学生 CG/Photoギャラリー

* 海外映像/写真作品 上映/展示

[2] オープンキャンパスでの学科紹介・作品発表

期日 2006年8月5日(土)

<http://1106.suac.net/news2/20060805/index.html>

2006年10月7日(土)

<http://1106.suac.net/news2/20061007/index.html>

(得られた成果等)

例年と違って特別研究の募集・決定が大幅に遅れたために、期日と来場者数に課題が残ったが、内容としては過去でもっともSUAC教員・学生の作品が充実したMAF2006となり、好評を得た。なかでも技術造形学科3回生の山口翔くんの作品「風見屏風」は、翌年NHK「デジスタ」で入選を果たすなど、レベルの高さが認められた。

オープンキャンパスでは、新しく「メディア造形学科」となる学科紹介を、作品の実例とともにメディアアートの視点から紹介したことで、多くの優秀な受験生を獲得し、過去に例がなかった事として、推薦入試の学科倍率は空間造形学科を抜いてトップの倍率となった。メディア造形学科の知名度の向上に貢献した。